

次期福祉計画策定にあたっての課題

調査結果から得られたニーズ・課題

■分野横断型グループディスカッション・グループインタビュー

※①～⑨は関連が強い右記の課題の番号

<11 圏域グループディスカッション>

◆地域の課題

- ・地域のつながりの希薄化、地域の人がわからない・情報共有が課題：①・④・⑨
- ・地域の担い手不足、自治会・町会の課題（加入者の減少）：③・④
- ・防災対策、災害時要援護者の課題：⑨
- ・高齢者の増加、見守り・支援の課題：④・⑤
- ・子どもの居場所・遊び場が少ない、見守り必要：④
- ・空き家の増加、道路が危険、交通の便が悪い、買い物が不便：②・⑤
- ・複合的な課題を抱える世帯、マナーが悪い人がいる等：⑦・⑨

◆課題解決のためにできること

- ・交流・居場所づくり、見守り・生活支援、情報提供・共有：①・④・⑤
- ・担い手の確保・育成、自治会・町会の活性化（団体同士の連携）：③・④
- ・行事・イベント、高齢者支援等、子ども・子育て支援等：④・⑤
- ・防災・災害時対応、資源の有効活用（空き家活用）等：④・⑨

<地域福祉の担い手等グループインタビュー>

- ・利用者には複合的な課題を抱えている世帯もある：⑦・⑨
- ・行政の情報やデータを市民と共有して地域課題を解決する：④・⑧
- ・協働事業は部署を横断的に、行政も一緒に進めてほしい：③・⑥
- ・「働く」ことをテーマに協働したい、福祉計画にも必要な視点：⑥・⑧
- ・団体として人材不足、資金不足：③・⑥

<相談支援機関グループインタビュー>

- ・80代の親と同居、支援を望まない50代への対応等（8050問題）、複合的な課題に対応する担当部署がない：⑤・⑦
- ・機関同士の連携ではリーダーシップ、どこまで支援するかが課題：⑦
- ・機関同士のネットワークを深めることが重要だが、複合的な課題を抱えるケースについては担当部署や調整機関があってもよい：⑤・⑦
- ・専門職の人材確保・育成が課題：③・⑦

<生活支援機関連機関インタビュー>

- ・見守り活動について市民と企業が一体感のある取組みを進めたい：③・④・⑥・⑧
- ・市との協働のアイデア：移動販売車、災害時の避難所への物資の供給、店舗での見守り、協働による車の乗合事業、仕事説明会等：③・⑤・⑥・⑧・⑨

■各分野別計画策定のための調査

<地域福祉分野>

調査1 一般市民調査

<高齢者福祉分野>

- 調査2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
- 調査3 要支援・要介護認定者調査
- 調査4 介護保険サービス提供事業者調査
- 調査5 介護支援専門員調査
- 調査6 医療関係者調査
- 調査7 在宅介護実態調査

<障害者福祉分野>

- 調査8 障害のある人の調査
- 調査9 障害のある子どもの調査
- 調査10 障害者福祉関連団体調査
- 調査11 障害福祉サービス事業所調査

分野別計画で詳細を分析中

全体的に関連

福祉計画が考えるべき課題（案）

①地域共生社会に向けた意識づくり

②バリアフリーのまちづくり
（ソフト・ハードの両面から）

③担い手の確保

④身近な圏域での活動や支援の仕組み
づくり

⑤医療・介護・生活支援の仕組みづくり

⑥市民協働の取り組み促進

⑦多機関協働による相談ネットワークの
構築

⑧多様な主体による連携の推進

⑨安心して暮らせるまちづくり
（生活困窮者支援、災害に強い福祉の
まちづくり）